

小学校 道徳 部会

部会長名 大任町立今任小学校 校長 種具朋一郎

実践者名 添田町立添田小学校 教諭 古田大地

1 研究主題

自己を見つめ、自己の生き方について考えを深める道徳科の授業づくり
～自他の考えを大切にする発問・話合いの設定を通して～

2 主題設定の理由

(1) 現代社会の要請から

学校内外を問わず、生活を送る上では、相反する道徳的価値について、どちらか一方の選択を求められる場面が数多く存在する。その場合の多くは、答えは1つではなく正解は存在しない。しかしながら、道徳科の授業の中で自己の思いや考えを表出できず、正解を求めてしまう姿も見られる。そこで、自己との関わりで考えを深め、道徳的価値に関わる諸事象を多面的・多角的に考えることができるようにし、よりよい生き方を求め、自己の生き方について考えを深めることができるようにしたいと考えた。

(2) 道徳教育のねらいから

平成 30 年度より「特別の教科 道徳」が全面実施となった。道徳科の目標は「より良く生きるための基盤となる道徳性を養う」とされ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標と同一でわかりやすい表現になった。また、道徳的価値について自分との関わりも含め理解し、それに基づいて内省し、多角的・多面的に考え、判断する能力、道徳的心情、道徳的行動を行うための意欲や態度を育てるという趣旨が明確化された。このように、子どもの発達段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の子どもが自分の問題として捉え、「問題」に対して、「あなたならどうするか」を真正面から問い、自分自身のこととして、多面的・多角的に考え、議論していく「考え、議論する道徳」へ転換することが求められている。

3 主題の意味

(1) 研究主題について

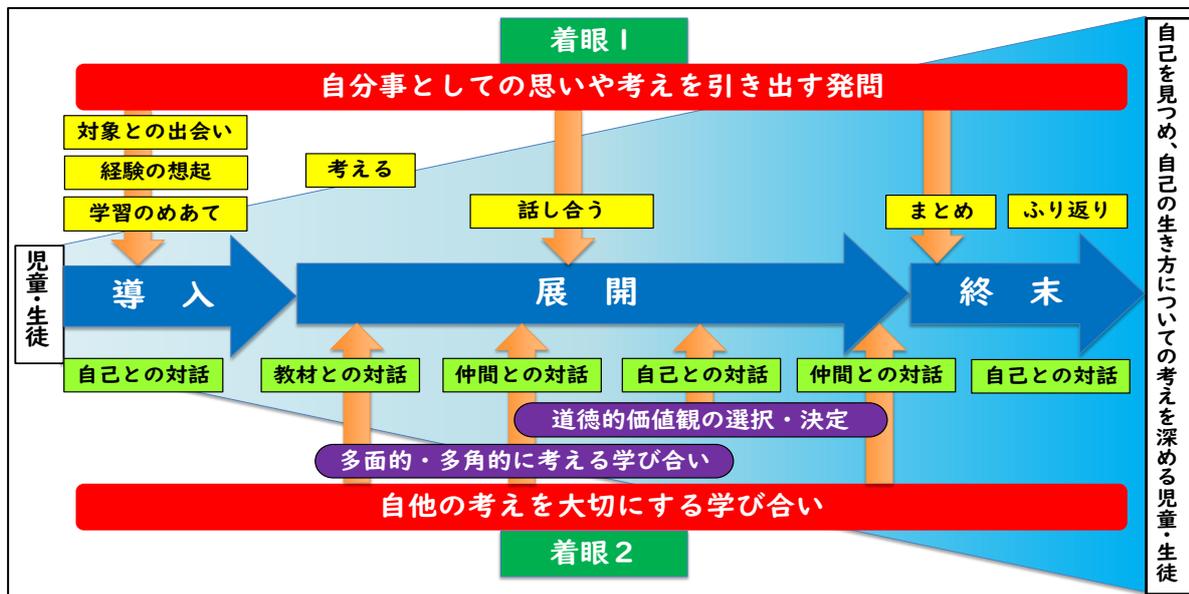
日本の子供たちは、諸外国に比べ自己肯定感が低い傾向にあると指摘されている。本校でも様々な調査や日々の言動を見てみても自分自身の良さや価値を見出せず、自己肯定感が低い生徒が多いと感じている。そこで、自己を見つめる学習を通して、今現在のありのままの自分を受け入れ、自尊感情を高めることが必要である。また、学習指導要領では、道徳科の目標として「自己の生き方を考え、主体的な判断のもとに行動し、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」ことを掲げている。

その学習を進めるにあたっては、「自己を見つめ、物事を広い視野から考え、人間としての生き方についての考えを深める学習」が求められていると考えた。以上の内容を総合的に判断し、具体的な主題設定の理由として、後段にあるように自己とのかかわりで考えを深め、道徳的価値に関わる諸事象を多面的・多角的に考えることができるようにし、よりよい生き方を求め、自己の生き方について考えを深めることができるようにしたい。

(2) 副主題について

副主題すなわち手立てを「自他の考えを大切にする発問・話し合いの設定を通して」としたのは、多様な価値観が認められるようになってきた現代であるにもかかわらず、人間関係は希薄化し、他者とのかかわりの中で自分の生き方を見つめなおす機会が減少しつつある。授業の中で他者との対話や議論を通して、様々な考え方に触れることは、自己の考えを深めるうえで不可欠であると考えたからである。

具体的な授業づくりとしては、自分の経験やその時の感じ方、考え方を引き出す発問を行い、自他の考えを大切に、多面的・多角的に考える学び合いを設定すれば、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深めることができると考える。その結果、目指す児童生徒の姿である、道徳的価値を自分との関わりで考え、多様な感じ方や考え方に触れ、伸ばしたい自己を深く見つめる児童生徒が育つと考えて、自分事としての考えを引き出す発問の工夫、自他の考えを大切に話し合い（学び合い）の設定を行ってきた。以上の内容を図解したものが下にある研究構想図である。



4 研究の目標

自己を見つめ、自己の生き方について考えを深める児童を育成するために、「特別の教科 道徳」の問題解決的な学習における効果的な発問や活動の要件を究明する。

5 研究仮説

自分の経験やそのときの感じ方、考え方を引き出す発問を行い、自他の考えを大切に、多面的・多角的に考える学び合いを設定すれば、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深めることができるであろう。

視点1：自分事としての思いや考えを引き出す発問
視点2：自他の考えを大切にする学び合い

6 研究の計画（授業の計画）

(1) 主題名 正しいと おもうことを【A- (1) 善悪の判断、自律、自由と責任】

教材名 「やめろよ」 (出典 日本文教出版)

(2) 主題設定の理由

○ 本学級の児童は、約束やきまりを理解し、守ろうとする姿が見られる。一方で、友だちが約束やきまりを守ることができていない場面においては、注意ができなかったり、流されてしまったりする児童もいる。これは、善悪の判断ができていないことや、善悪の判断ができていても関わらず、友だちに嫌われたくないという気持ちや、注意することが怖いという気持ちがあるのではないかと考える。そこで、約束やきまりを守ろうとする意欲がありながらも、友だちが約束やきまりを守ることができていない場面で、流されたり、注意することができなかったりするこの時期に、注意することができた時には、うれしきやすがすがしきが生まれることに気づき、正しいと思ったことを進んで行おうとする態度を養いたい。

○ 「善悪の判断、自律、自由と責任」とは、物事の善悪の判断についての的確に判断し、自ら正しいと信じるころに従って主体的に行動すること、自由を大切にするとともに、それに伴う自律性や責任を自覚することをねらいとしている。この時期の児童は、何事にも興味、関心を示し、意欲的に行動することが多い反面、まだ集団生活に十分に慣れていないために、引っ込み思案になったり物おじしたりすることも少なくはない。このような時期に、積極的に行うべきよいことと、人間としてしてはならないことを正しく区別できる判断力を養っていききたい。また、よいと思ったことができたときのすがすがしい気持ちを思い起こさせるなどして、小さなことでも遠慮しないで進んで行うことができる意欲と態度を育てていきたい。

○ 本教材は、ぼんたがいじわるをしているこんきちを見つけ、注意しようか注意しないか葛藤する話である。こんきちは、いつも誰かを泣かせている。でも、怖くて誰も何にも言えない存在である。学校の帰り道、ぼんたはぴよんこの耳をひっぱっているところを

見つける。注意しようか注意しないか葛藤し、注意しようと思った時、こんきちに怖い顔でにらまれ、そのまま通り過ぎようとする。いじわるをうけているぴんこが泣き始めるが、こんきはやめない。怖いという理由で、注意をしないという間違いについて理解し、進んで正しいことをしようとする思いを深める内容である。約束やきまりをまもることは大切だが、注意することは進んでできないという状況は、本学級の児童の実態と重なる。このことから、進んで正しいことをすることのうれしさや、すがすがしさに気付くことができる本教材は、大変価値がある。

○ 本主題の指導にあたっては、正しいことを行わないことの間違いに気付き、よいと思うことを進んで行おうとすることのうれしさや、すがすがしさについて気づかせたい。まず、導入段階においては、いじわるを注意することがよいと分かっているが、注意できないという認識と行動のずれを感じさせるために、事前アンケートを実施した。次に展開前段においては、本教材を途中まで読み、ぼんたがこんきちに注意するか注意しないか、葛藤している気持ちをつかむことができるように、心情図を使って意思表示をする時間を設けた。その後、役割演技を通して、怖くても注意できた時のうれしさや、すがすがしさに気付かせる。展開後段においては、自分たちの学校生活を振り返らせ、同じような場面がないか想起させ、問題意識を持たせる。終末段階においては、本時の価値の高まりを実感できるようにするために、ぼんたの素晴らしさに加え、ぼんたが注意したときに一緒に注意した友だちの素晴らしさについて話をする。

(3) 本時のねらい

いじわるをしているこんきちに対して、ぼんたが「やめろよ」と言えた時の気持ちについて話し合うことを通して、よいと思ったことができた時には、うれしさやすがすがしさが生まれることに気付き、正しいと思ったことを進んで行おうとする態度を養う。

(4) 授業づくりの視点

◇ 視点1 自分事としての思いや考えを引き出す発問
多様な価値観を表出できるように、以下の発問を行う。

「いじわるをみたぼんたは、注意すると注意しないの気持ちはどちらの方が大きいのだろう。」

◇ 視点2 自他の考えを大切に学ぶ機会

注意できた時の方が、快感情になることに気付くことができるようにするために、役割演技を行い、その時の気持ちを問う活動を設定する。

(5) 準備 教科書の挿絵、アンケート結果、心情図

(6) 展開

段階	学習活動と主な発問・予想される児童の反応	指導上の留意点と評価 (◇)				
導入	<p>1. 本時学習の方向性について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廊下を走ることはいいことですか ・誰にでも廊下を走っている人に注意できますか ・なぜ注意できないのですか 	<p>○児童が普段の生活を想起し、ねらいとする道徳的価値について意識を高めることができるように、アンケートを掲示する時間を設ける。</p>				
展開前段	<p>2. ぼんたの気持ちの変容について考える。</p> <p>(1) こんきちがびよんこの耳をひっぱっているときに、「注意する」か「注意しない」か、葛藤するぼんたの気持ちについて考える。</p> <table border="1" data-bbox="295 891 933 1086"> <tr> <td data-bbox="295 891 625 943">注意する (赤)</td> <td data-bbox="625 891 933 943">注意しない (青)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="295 943 625 1086"> <ul style="list-style-type: none"> ・いじわるはよくない。 ・びよんこがかわいそう。 </td> <td data-bbox="625 943 933 1086"> <ul style="list-style-type: none"> ・自分もやられそう。 ・にらまれそう。 </td> </tr> </table> <p>(2) ぼんたは注意をしなかったら、どのような気持ちになるのか考える。</p> <div data-bbox="343 1276 906 1388" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>注意できなかった時、どんな気持ちになりましたか。</p> </div> <div data-bbox="295 1411 861 1534" style="display: flex; align-items: center;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 250px;"> <p>モヤモヤしそうです。 注意しておけばよかった。</p> </div> </div> <div data-bbox="295 1556 861 1668" style="display: flex; align-items: center;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 250px;"> <p>みんなもモヤモヤ。 こんきちもよくなるらない。</p> </div> </div> <p>(4) 注意することができたときのぼんたの気持ちについて話し合う。</p> <div data-bbox="295 1803 938 1870" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>注意できた時、どんな気持ちになりましたか。</p> </div> <div data-bbox="295 1904 874 2004" style="display: flex; align-items: center;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 280px;"> <p>すっきりしました。 注意するとうれしくなりました。</p> </div> </div>	注意する (赤)	注意しない (青)	<ul style="list-style-type: none"> ・いじわるはよくない。 ・びよんこがかわいそう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分もやられそう。 ・にらまれそう。 	<p>○ぼんたが注意するか注意しないか、葛藤している気持ちをつかむことができるように、「注意する」「注意しない」というどちらの気持ちが大きいのか、心情図を使って意思表示する場面を設ける。【視点1】</p> <p>○多様な考えに触れることができるように、ペアで話し合いの時間を設ける。</p> <p>○注意できないという人間的弱さが誰にでもあることに気付くことができるように、注意しないといけないと思っはいても、行動に移せないぼんたの気持ちをおさえる。</p> <p>○正しいと分かっている、行動に移せないとずっと後悔することに気付くことができるように、言えなかった時の気持ちを考える場を設ける。</p> <p>○注意するのが怖いと感じながらも、「いじめはやめろよ」と注意できたときの気持ちを、自我関与しながら考えることができるように役割演技を行う。</p>
注意する (赤)	注意しない (青)					
<ul style="list-style-type: none"> ・いじわるはよくない。 ・びよんこがかわいそう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分もやられそう。 ・にらまれそう。 					

展開 後段	<p>注意する時、怖くなかったですか。</p>  <p>ぴよんこのために勇気をだして 言いました。</p> <p>3. 主題に掲げる道徳的価値について自分事として考える。</p> <p>よいと思うことをする時、どんな心が大切かな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勇気を出して注意する心。 ・怖くても頑張って注意する心。 ・相手のことを考えて注意する心。 	<p>【視点2】</p> <p>ぽんた→児童、こんきち→教師</p> <p>○今後に向けた意欲を高め、自己を見つめなおすことができるように、具体的な状況を示した写真（廊下・図書室）を掲示する。</p> <p>◇よいと思ったことができたときのすがすがしさなどに気づき、正しいと思ったことを進んで行おうとする思いを記述している。</p>
	終末	<p>4. 教師の説話を聞く。</p> <p>○本時の価値の高まりを実感できるように、教師の説話を行う。</p>

(7) 内容項目の分析

「善悪の判断、自律、自由と責任」 A- (1)

低学年	よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。
中学年	正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。
高学年	自由を大切に、自律的に判断し、責任のある行動をすること。

	キーワード	価値
低学年	よいことと悪いこととの区別	積極的に行うべきよいことと、人間としてはならないことを正しく区別しようとする。
中学年	正しいと判断 自信をもって行う	正しいと判断したことは自信をもって行い、正しくないとは判断したことは行わないようにする。
高学年	自由を大切に 自律的に判断 責任のある行動をする	自由と自分勝手の違いや、自由だからこそできることやそのよさを考え、行動しようとする。

(8) 教材分析

条件・状況 ※主人公が直面している道徳的場面	<ul style="list-style-type: none"> ・いじわるをして泣かせているこんきち。 ・怖くてだれもこんきちに何も言えない。 ・こんきちは、びよんたの耳をひっぱって面白がっている。
人間的な弱さ・脆さ	<ul style="list-style-type: none"> ・注意しようとするのにらまれたため、通り過ぎようとする。
回転軸（きっかけ） ※主人公が変革するきっかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・びよんこが泣き始める。 ・それでもこんきちはやめない。
価値への目覚め	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼんたは怖かったけれど、大きな声で「いじわるはやめろよ。」と言った。
価値の納得	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなも言った。

(9) 板書計画



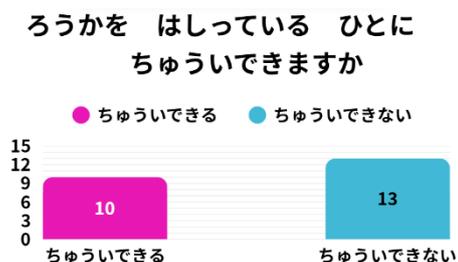
7 指導の実際

(1) 導入について

導入では、いじわるを注意することがよいことだとわかっているが、注意できないという認識と行動のずれを感じさせるために、事前アンケートを実施し、本時でアンケート結果を掲示した。【資料1】

- ① 「廊下を走ることはよいことですか。」の問いには、全員がよくないことと答え、「廊下を走っている人に注意することはよいことですか。」の問いには、全員がよいことだと答えた。② 「誰にでも同じように、注意をすることができますか」の問いには、23人中13人が注意できないと答えた。その理由として、「あまり話したことの無い人に注意するのは怖いから。」や「仲がいい人だと嫌われそうだから注意できない。」「注意しても言い返されそう。」などがあつた。廊下を走っている人を注意することはよいことだとわかっているが、注意できない人がこのクラスの半分以上いるということをグラフで確認し、よいと思うことをする時にどんな心が大切なのかと問い、めあてにつなげた。

【資料1 アンケート掲示の様子】



(2) 展開前段について

展開前段で、ぼんたがこんきちに注意するかしないか、葛藤している気持ちをつかむことができるように、「注意する」「注意しない」という気持ちはどちらの方が大きいのか、心情図を使って、意思表示をする場面を設けた。また、多様な考えに触れることができるように、ペアで話し合いの時間を設けた。【資料2】ペアでの交流では、注意する考えとして、「こんきちがやめてくれるかもしれない。」や「ぴよんこがかわいそう」、注意しない考えとして、「注意したぼんたもやられるかもしれないから、注意しない。」や「注意しても言い返されそう」など多様な考えが出ていた。

その後、ぴよんこが泣き始めたが、それでもこんきちはいじわるをやめない様子を見て、注意しなかった時と、注意した時はどんな気持ちになるのか考えさせた。注意することがよいことだと分かってはいても、怖くて注意できないぼんたの気持ちを全体で共有した。注意することが怖いと感じながらも、「いじわるはやめろよ」と注意できた時の気持ちを、自分事として考えることができるように、役割演技を行った。【資料3】

こんきちがいつもいじわるをしていることと、いつもだれかを泣かせている怖い存在であること、それに対してぼんたは怖くて今までは言えなかったことをおさえて、ペアで役割演技を行った。注意する言葉は、何と言っていていかわからない場合が考えられたので、教科書と同じように「いじわるはやめろよ」に統一した。教師が「こんきちが、ぴよんこの耳をひっばっています。ぴよんこは泣き始めました。それでもこんきちはやめません。ぼんたは怖かったけど、大きな声で言いました。」と言った後に、「いじわるはやめろよ」とぼんた役に言わせた。ぼんた役とこんきち役を交代させた後、2名の児童に教師と役割演技を行わせ、注意できた時の気持ちを発問すると、児童から「言えていい気持ち。」「うれしくなった」など快感情の意見を引き出すことができた。

【資料2 心情図を活用したペアワークの様子】



【資料3 役割演技の様子】

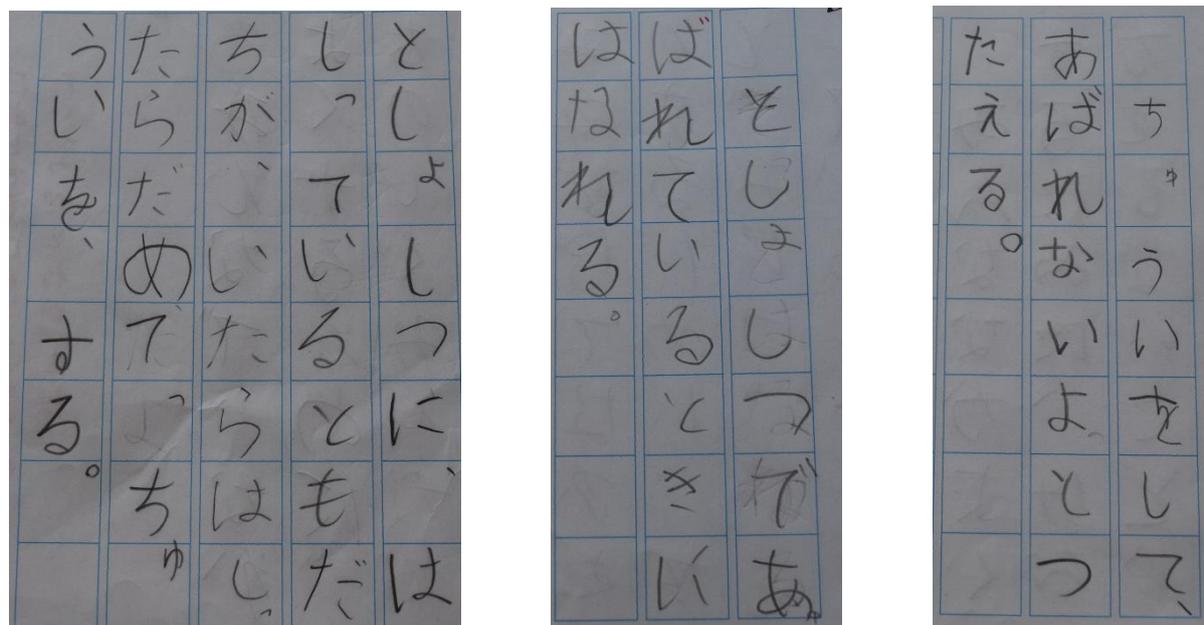


(3) 展開後段について

展開後段では、教材から離れ、自分事として考えることができるように、本時のアンケートに一度立ち返った。「アンケートでは、注意をすることがよいことだと分かっているけど、こわいとか、仲がいいからとか、いいかえされそうという理由で、注意できない人が半分以上いたよね。これからの生活で、そんな人たちが、廊下を走っていたり、図書室であばれたりしていたら、みんなはどうしていきたくないかな？どんな心を大切にしていきたい？」と問いかけ、廊下と図書室の写真を提示した。

児童の記述の中には、21人中14人が「廊下で走っていたり、図書室であばれたりしていたら、注意をする」ような記述をしていた。【資料4】それ以外の記述としては、「ことわる」が4人、「その場から離れる」が1人、「注意できない」が1名、無記入が1人であった。

【資料4 児童の振り返り】



9. 成果と今後の課題

(1) 成果

- 教材を区切ることで、状況を整理しやすくなった。
- 導入でのアンケートは、いじわるを注意することがよいとわかっているけど注意できないという認識と行動のずれを感じさせることができた。
- 意思表示の際、心情図を活用することで、注意するか注意しないかどちらの気持ちが大きいのか自分の気持ちを明確にすることができた。
- 展開後段で、アンケートをもう一度振り返り、自分自身の生活場面に落とし込むために、廊下と図書室の写真を掲示することで、教材から離れ自分事として考えようとする姿

を見ることができた。

(2) 課題

●心情図を活用する場面でペアでの交流の後、2人指名し全体交流を行った。心情図で似た考え、異なる考えの友だちを探して交流させると、より多様な考えに触れる時間となったのではないかと考える。また、大きな心情図を教師がスライドをしながら見せ、児童に一番近いところで挙手をさせることで、全体参加につながったのではないかと考える。

●役割演技の時に、「いじわるはやめろよ」と制限させずに、注意する言葉を自由に発言させることで、自分事として考え、より快感情につながったと考える。

●役割演技の時に、注意できた時の快感情をより一層感じることができるよう、教師が怖い雰囲気 연출し、児童が「やめろよ」と言いにくい雰囲気を作る必要があった。

●よいこと＝注意することに限定してしまっていた。「怖くて注意することはできないけれど、友だちに相談する」「その場から離れる」など、人それぞれ「よいと思うこと」は異なるので、多様な価値観を共有する時間があってもよかったと考える。

◎参考文献

- ・小学校学習指導要領解説 道徳編
- ・道徳教育実施状況調査報告書 文部科学省
- ・道徳授業がおもしろくなる技術 佐藤幸司 明治図書
- ・おもしろすぎて授業したくなる道徳図解 森岡健太 明治図書
- ・道徳授業で大切なこと 赤堀博行 東洋館出版